

第 73 号 2025 年 7 月

# The ☆すぺしゃりすと

## CONTENTS



- 第 24 回定時総会報告
- 2025 年定時総会后交流会報告
- 定時総会前「沈黙を破って」視聴
- 公開セミナー【子どもたちの今そしてこれから…】
- CAP30 周年記念グッズ報告
- 2025 年度のトレーニング
- 新ツール「CAP ミニリーフレット」
- サークルズのとりくみ
- 2025 年度助成事業
- 民主主義ユースフェスティバル



すべての子どもが“安心・自信・自由”に

## 第 24 回定時総会報告

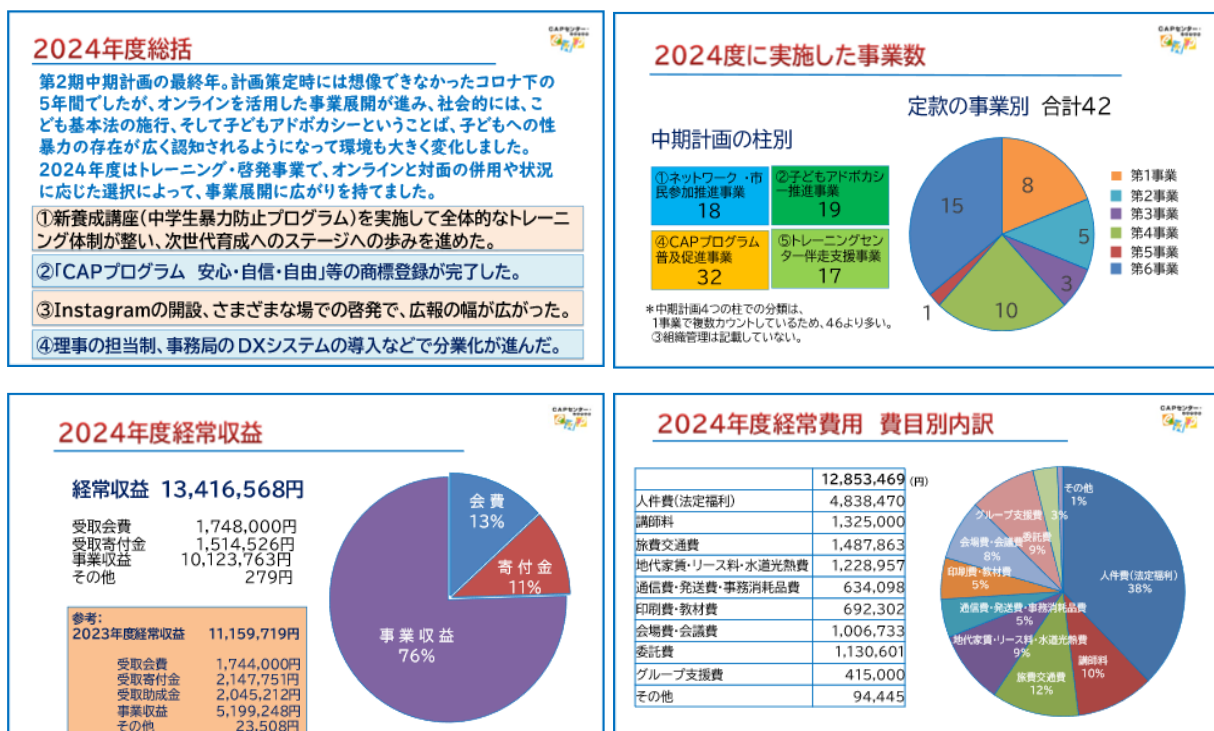
## 日本のCAP30 周年－2025 年度が始まりました

今年度から第3期中期計画が始まり、CAP 活動の活性化と次世代トレーナー養成を目的とした「CCJ 未来アクション」が始まります。5月31日（土）には第24回定時総会をドーンセンター（大阪市中央区）にて実施し、全議案が承認されました。当日は、2024年度の活動を会員の皆さんとしっかり確認・振り返りを行い、今後の計画・活動を共有しました。当日もさまざまなご意見をいただき、より詳細な部分の確認もできました。ハイブリッドでの実施が定着していますが、運営側としてできるだけだけの準備をするものの、毎年違ったトラブルが発生し、今回もご参加の皆さんには多少お待ちいただく時間がありましたが、オンライン参加者も会場参加者からも質問や発言をいただき、最後に意見交換の時間が持て、双方向のやりとりができたことを良かったと思っています。

今総会における団体の正会員数は57（団体正会員52、個人正会員5）、定足数29のところ、表決権数は48（本人会場による出席12、本人オンラインによる出席7、書面出席29）で、当日の参加者は25人（会場18人、オンライン7人、傍聴者を含む）でした。

議長には梶田はるなさん（しまもとCAP/大阪府）、議事録署名人選任には三野敬子さん（はりまCAP リバ/兵庫県）、松本史恵さん（ひとつぶのたね/大阪府）が選任されました。第1号議案の2024年度報告（事業・会計）、第2号議案の2025年度計画（事業計画・予算）は、質疑応答と意見交換を経て、全議案が承認されました。

## 〈2024 年度報告〉 議案説明 PPT より抜粋



## 〈第3期中期計画〉〈CCJ 未来アクション〉

第2号議案の前に、理事からそれぞれ説明を行いました。

**いつでもどこでも子どもの権利を当たり前！**  
**Sustainable Action for Children's Rights by All**  
 一人ひとりの子どもが持てる力を発揮できる社会へ

CAPセンター  
CAP JAPAN

認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 第3期中期計画 ②025～2029年度

### CCJ未来アクションとは・・・

【総合ビジョン】

この「CCJ未来アクション」とは「**子どもの人権を奪う暴力を防止するための活動(CAP活動)**」を各地域に浸透させ、各地で行われている子ども支援をする自治体やNPO等の市民活動に

- \* **「子どものことは子どもの声を聴く、当事者参画」が根付くよう**
- \* **「子どもの権利が当たり前になる社会」に向け影響を与えていく**

**人材養成を目的**としています。

そのための地域(エリア)のリーダーを育成するトレーニングチームを創設し、**CAP活動における地域格差を少なくし持続可能な組織運営を目指し**ています。

説明文書は以下の URL からダウンロードできます。総会での説明内容を録画しましたので、視聴もできます。

「第3期中期計画」

PDF <https://x.gd/scbgx>

<https://youtu.be/g1nk7YIOi0c>

「CCJ 未来アクション」

PDF <https://x.gd/TEyp7>

[https://youtu.be/nEdtUAoNA\\_8](https://youtu.be/nEdtUAoNA_8)

## 〈2025 年度〉議案説明 PPT より抜粋

### 2025年度 事業方針

**NPO法人：**

中期計画のスローガン 「いつでもどこでも子どもの権利を当たり前！ Sustainable Action for Children's Rights by All (SACRA)」を掲げ、さまざまな分野で子どもを対象に“子どもまるごと理解への転換”へのアプローチを積極的に行い、子どもまんなか社会づくりを加速化するために、子ども支援を推進する諸団体との連携をはかります。

**RTC(CAPトレーニングセンター)：**

持続可能な活動のために、トレーニング規約を策定し、CAPプログラムの活性化・次世代CAPトレーナー養成に向けた「**CCJ未来アクション**」をスタートします。CAP活動実践者には、中期計画で掲げたバリュー「子ども差別を見逃さない」「エンパワメントアプローチを意識する」「地域・社会に働きかける」、および行動方針を意識しながら活動できるような環境整備や事業実施に努めます。

### 第3期中期計画での事業分類

| 定 款                                     | 中期計画                                          |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 第1事業 CAPプログラムを提供する各種人材の養成講座と研修学習事業      | トレーニング<br>子どものウェルビーイングをめざすCAPトレーニングセンター       |
| 第3事業 CAPに関する情報提供および相談事業                 |                                               |
| 第5事業 CAP実践に関する調査およびプログラムの効果調査           |                                               |
| 第2事業 子どもへの暴力防止全般の学習啓発事業                 | 啓発・広報<br>子どもまるごと理解への転換                        |
| 第4事業 CAPに関する広報事業および出版事業                 |                                               |
| 第6事業 子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および団体との連携のための事業 | 協働<br>子どもまんなか社会の早期実現<br>人との交流安全<br>パウンダリーの意識化 |
| 第7事業 その他、この法人の目的達成のために必要な事業             |                                               |

総会当日の質疑応答・ご意見、振り返りアンケートは、CCJ ホームページの「正会員情報」に掲載していきます。2025 年度もどうぞよろしくお願いいたします。



## 今の子どもたちにどう CAP を伝えるか

昨年度に続き、今年度も総会後に対面での CAP スペシャリスト交流会が開かれました。昨年は、各地の皆さんのおとなワークショップでのアイスブレイクやさまざまな工夫について紹介しあうことができました。そして、今年はジャーナリストでもある理事の樋田さんより、「トー横キッズ」「グリ下キッズ」などと呼ばれる子どもたちの現状等の報告をしました。

樋田さんは前夜もトー横で子どもたちの支援団体と共に子どもたちの話を聞かれていたとのことでした。中には小学生もいたそうです。かつてこのような状況にあった人が、振り返ってみると「死のうと思った時に思った時に浮かんできたのは、伴走してくれた人の顔だった」という話をされたこともあったそうです。全国どこにでも「〇〇横キッズ」の姿はあると思います。そのような中、CAP の私たちができること」をテーマにグループになって話し合うことをしました。



当日投影資料から

最初に「15歳のとき、あなたはどこで何をしていた？」を思い出し、自己紹介をしました。遠い遠い10代の「わたし」を呼び起こしました。中学校の廊下を自転車やバイクが走る学校に通っていた15歳、登校し難い同級生の家に毎日のように訪ねていた15歳、初めて彼氏ができた15歳等々。私たちにも確実に15歳はあったのです。苦しい15歳、楽しい15歳・・・さまざまな思いを抱いていました。今のキッズと何が違うのだろうか？彼らにとって、何が必要なのだろうか？子どもの「安心」「自信」「自由」を保障するため何ができるのだろうか？グループになり話し合いをしました。CAPは子どもたちの「安心・自信・自由」の権利を保障する環境を作り、子どもたちに「権利」という道具を手渡していく活動です。

さあ、みなさんどうしていきましょう??もちろん、子ども、家庭、地域の3方向へのアプローチ。学校、家庭、地域などをつなぐコミュニティプログラムとしてのCAP提供をしています。その中で自治体の子ども権利条例周知への参画、人権教育、エンパワメントなどすでにやってきたことに、時代や環境に合わせた名付けや見せ方などの工夫についてのアイデアがたくさん出たように思います。ぜひ、それぞれCAPスペシャリストの皆さんの生活していらっしゃる地域でCAP普及の提案をしてください。各グループでさらにCAPの効果的な見せ方を考えあってもらえればと思っています。

交流会担当理事：志治優美・日下智賀子

定時総会前「沈黙を破って」視聴

## 今も変わらぬ性暴力を考える

5月31日、定時総会に先立ち「沈黙を破って」の視聴会を行いました。

「沈黙を破って」は、子どもへの暴力防止基礎講座の3日めに【講義5】として視聴するドキュメンタリーで、アメリカで製作されたものです。視聴にあたっては「『沈黙を破って』上映1987年に準備のための案内書」より抜粋した監督であるテレサ・トリーニや製作側の思いのこもったメッセージを読むことになっています。

講座の目的としては「講座の1日目・2日目で学んだ子ども虐待・DV/子どもへの性暴力などの被害を受けた当事者、加害者、支援者等によって語られるドキュメンタリーを視聴し、自分のなかで何が起きるか、あるいは起きないかを見つめる」です。子どもへの性暴力について知るだけでなく、被害・加害に関わる話を聞いたときに自分がどのように反応するのかを知っておくことが大切です。

参加者はCAPスペシャリスト歴もさまざまな20名ほどの方が参加してくださいました。

2010年以降の「子どもへの暴力防止のための基礎講座」で使われてきたドキュメンタリーですので、それ以前から活動している方は初めての視聴となる方もいました。

視聴後は基礎講座での受講者の様子も伝えつつ、グループに分かれてもらい、感想や気持ちのシェアを行いました。参加された方からは、2度目だから前回より内容がよく聞き取れた」「受講者としての視聴とCAPスペシャリストとしての経験を積んだ後の視聴では観る視点も変わり、より深く理解できた」「重い内容のドキュメンタリーも安心できる環境だと落ち着いて観ることができる感じた」などの感想が聞かれました。

今回初めての試みでしたが、視点が変わると理解が深まることが改めてわかりました。基礎講座・養成講座も基本的な部分は変わりませんが、お伝えするデータや法律等内容もブラッシュアップしています。フォローアップ受講して新しい情報を得ていただければと思います。

基礎講座担当スタッフ：脇 千尋

公開セミナー【子どもたちの今。そして、これから、2025】

## ACE を学んで支援の在り方を考える

CAP30周年記念セミナーは総会翌日の午後70人以上の参加があり会場満員の大盛況でした。

まずは、三谷はるよさん（大阪大学准教授）の基調講演がありました。

内容は①選ぶことが出来ない“生まれ（家庭環境）”の格差が、一生涯の広範囲に及ぶ格差につながっている②ACE（小児期逆境体験、子ども期の逆境体験）は個人の問題ではなく、社会の問題である③今、逆境に曝されている子どもたち/かつて曝されていたおとなたちを無視しない社会作りへの課題でした。

ACE とは Adverse Childhood Experiences の頭文字をとったもので、ACEs と表記されることもあります。和訳は「小児期逆境体験」「子ども期の逆境体験」とされ、18 歳までに経験する虐待・精神疾患、親との離別といった、家庭の機能不全による逆境的な経験のことをいいます。研究で用いられる「ACE スコア」とは 10 項目（身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、心理的ネグレクト、身体的ネグレクト、薬物・アルコール乱用、精神疾患・自殺未遂、家庭内暴力、服役、親の離婚・別居）に 18 歳までにいくつ当てはまるかを 0 から 10 の数値として表します。スコアが高いほど健康問題や社会経済的問題のリスクが高まるのです。日本での ACE に関する疫学研究でも、「高 ACE スコアの高齢者はがん・心疾患・脳卒中・糖尿病・認知症のリスクが高い」「高 ACE スコアの成人は不安障害のリスクが高い」「高 ACE スコアの若年の母親は自称念慮リスクが高い」

「高 ACE スコアの子どもに問題行動や抑うつ症状が出やすい」の調査結果が出ています。また、日本成人における ACE 分布はスコア 0 が 61.6%、1 以上が 38.4%です。特にリスクの高い 4 以上は成人人口の 4%・440 万人と学術調査でわかっています。

中学生対象の調査ではスコア 1 以上が 5 人に 1 人、少年院在院者の 9 割がスコア 1 以上に当てはまるという結果が出ています。

ACE 問題に対して私たちに何ができるか？では、三谷さんは、①トラウマケア、②子育て支援、③子ども期の肯定的体験を挙げられました。子ども期の肯定的体験は Positive Childhood Experiences の頭文字を取り PCE・PCEs と表記されます。18 歳になるまでに経験された、子どもの帰属意識やつながりを構築できる肯定的体験のことをいいます。「子ども期の地域・学校での肯定的体験の豊かさが ACE サバイバーの疾病リスクを半減する」という調査結果も出ています。早い時期に「自分のことを気にかけてくれる大人がいる」「助けてとっていいんだ」と学べる機会があることの大切さを強調されていました。肯定的体験を子どもたちへ届ける機会として「CAP プログラム」に期待しているという発言もありました。

基調講演の後、実際の学校現場での ACEs と TIC（トラウマインフォームドケア）の実践について大阪府立西成高校の山田校長と西成高校内に ACEs サバイバーのアウトリーチ活動として「となりカフェ」を開かれた辻田さん（一般社団法人 office ドーナツトーク）のお話がありました。高校生の生の声、置かれている環境の話を具体例で教えていただきました。

私はセミナーに参加し「幼児期の育ちがいかに大切か」、そして、信頼できるおとなの存在はその子の一生を通して大切な支えになることも再確認しました。また、18 歳になると急におとなとして扱われ、自己責任論を押し付けられる日本の社会環境に対して、それまでの十分な支援がより必要であることも実感しました。

私に出来ること！まずは私のまわりのおとなに「ACE って知ってる？」「PCE って知ってる？」と言葉を広めようと思います。そして、子どもと関わるおとなとして日々の小さな積み重ねを大切に、肯定的体験をたくさん出来るような環境作りをしていきたいと思いました。

CCJ スタッフ：山田悦子



## 復刻 T シャツ頒布終了

1995 年 11 月に日本で初めて「CAP スペシャリストを養成講座」が実施され、各地で CAP グループが次々に発足し、CAP プログラムを提供するようになって 30 年。

日本での CAP 活動 30 周年を記念して、以前デザインした JAMMIN コラボ T シャツに“Child Assault Prevention”の文言を加えたアイテムを復刻頒布しました!! — 定番の T シャツにフリル袖 T シャツや、ロン T、パーカー、エプロン、ショルダーバッグ、クッションカバーやいろんなグッズなど。



CCJ 総会・翌日の公開セミナーの会場では、実物見本を見てもらったり、一部即日頒布を行ったりしました。特に今回はインクの色を変えてより落ち着いた感じにしたのが好評でした。フリル袖 T シャツに興味がある方も多く、実際それを着ているスタッフへの注目度が非常に高かったかったです。「是非 JAMMIN のサイトを閲覧し購入したい」と言ってくれる方もあり、チャリティー商品（ご購入代金の一部が CCJ へのご寄付）への応援を感じました。期間中、T シャツを購入して、X に写真付きで投稿してくださった方もおられました。

私たち CAP スペシャリストは活動地域が離れていますが、同じ T シャツを着て、CAP への思いをつなげることが出来たらと思っています。街着としても活用して CAP への普及宣伝にお役立てください。ご協力ありがとうございました。

CCJ スタッフ：佐々木興子

## 2025 年度のトレーニング

### トレーニングセンターの未来と 2025 年度の事業

#### 【CCJ 未来アクション】

「こどもまんなか社会」を実現していくトレーニングセンターを目指し、いよいよスタートする持続可能な活動のための『CCJ 未来アクション』。

共に学び合いながら、各地で頑張る CAP グループを活性化する人材を養成します。各地域で、以下の 2 つを目指します。

- \*「子どものことは子どもの声を聴く、当事者参画」が根付く。
- \*「子どもの権利が当たり前になる社会」に向けて影響を与えていく。

具体的には CCJ のエリアを 5 つに分け、それぞれのエリアに 2 名ほどの地域トレーナーを置き、そのエリアの課題をその地域トレーナーが把握したり、グループの相談にのったりなど連携を密にとり、エリアの活性化を図ります。二人は一人より強い！安心な関係の中で、トレーナーが個人ではなくチームとして活動し多様な人材が互いに知恵を出し合い、助け合い、補い合いあってチーム力を高めることを大切にします。日本のどこに生まれても・どこで育っても CAP が受けられる社会を CAP スペシャリストの皆さんと目指します。

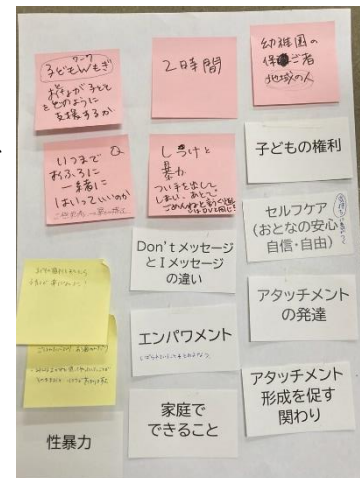
まずは月 1 回（第 4 水曜 20 時～）のオンライン学習会で、CAP に必要な知識・情報などをお互いスキルアップし、多様な気づき・意見を積極的に分かち合いたいと思います。CAP の実践経験・グループ在籍年数などは一切関係ありません。ご関心のある方は、第 1 回目（6/25 オリエンテーション）欠席でも、15 人程度の定員までは受け付けますので、どうぞ申し込みをしてください。

また、これからのトレーナーが思い切り活動ができるように金銭面での支援をしたいという思いから、この度、「未来アクション基金」を創設しました。トレーニングセンターとして活動が持続できるようにどうぞ、お力をお貸しください。

## 【6 月 1 日 CAP スペシャリスト研修】

社会を変えるというミッションのために CAP おとなワークショップは重要です。総会翌日の「おとなワークショップの活かし方～料理のレシピに例えて考えてみましょう」には、23 名が参加してくださいました。参加動機は依頼先のニーズにマッチングするワークショップのバリエーションを増やしたい、そのための土台の構築、新しいメンバーがチャレンジできる準備や内容の精選など様々。

おとなワークショップを提供するときは目の前のおとなが当事者です。教職員のように専門性が一致していて課題共有しやすい集団は、実はおとなワークショップの経験が少ないメンバー向き。そこで参加者は、保育園の保護者向けを一部体験。保護者の「あるある」から「自分だけじゃなかった」「今日から使える！」となり、楽しく学ぶ雰囲気作り、そして、データから子どもたちから見えている現実への気づき、拠り所となる考え方を腑に落とすという流れを提案しました。その後、24 枚の素材カードを使い、対象やニーズを想定して、グループでおとなワークショップを組み立てました。「ずっとやってきたから」「〇〇を入れなくちゃ」ではなく、当事者の声を聴く、ニーズに合わせて組み立てる。それぞれの素材を使う目的と得られる効果についてメンバーで率直に意見を出し合い、ワイワイと話し合いながら作りあげていきました。



グループでの作業の成果

## 【資格更新研修】

今年度は好評を頂いている「こども基本法と CAP プログラム」に加えて、CAP 活動で使える『性』のアレコレのテーマが登場します。自分の中の性のバイアスを振り返り、性をめぐる今日的話題と CAP プログラムをつなげてとらえてみるという方向性で、現在、鋭意考案中です。トークタイムやおとなワークショップでのアウトプットなどの CAP 活動に役立ててください。資格更新は、まだ先だけど受講したいという方は大歓迎。今年度下半期から提供予定です。

CAP トレーナー：徳永桂子

## CAP ミニリーフレット ぜひご活用ください!

2025 年 4 月に「CAP ミニリーフレット」を新発行しました。第 3 期中期計画の目標の一つは、「おとなが変わろう! 子どもまろごと理解への転換」です。さらなる CAP の啓発および市民参加を促進するために、対象や分野別に応じた広報が必要としており、その第 1 弾となります。

これまで CCJ が発行してきたリーフレットやパンフレットには、「文字数が多い!」「CAP プログラムを知っている人には詳細が書いているのでいいけど…」といったご意見がありました。CAP を全く知らない人に簡単に説明するためのもの、少し話を聞いて「もっと知りたい」と思ってもらえるようなツールがあると良いのではという理事会の意見交換から生まれたものです。

作成には、できるだけ文字数を少なくして気軽に見てもらえるものを心掛け、2025 年 3 月に行われた大学生が多く集まるイベントで若者を対象に CAP を説明するという設定を想像しながら、事務局で 1 月くらいから何度か手直しをして配布してきました。

A 4 サイズ厚紙を折ってコンパクトなサイズにしているので、持ち運びも便利です。4 月からホームページでダウンロードできるようにもしています。CAP グループからは「保護者 WS で配布したい」「県へのプレゼン資料としたい」「保護者の持ち帰り資料にしたらどうか」などのご意見をいただいています。リーフレットの裏面には、枠囲みがあるので、CAP グループ名を入れていただくことが可能です。

日本の CAP30 周年を記念して、CAP ミニリーフレットは、2025 年上半期(～9 月末)まで、送料のみでお送りさせていただきます。ご希望のグループは、以下のフォームからお申し込みください。

<https://x.gd/SoRGS>

ホームページからダウンロード

[https://cap-j.net/archives/news/20250401\\_news](https://cap-j.net/archives/news/20250401_news)



## 人との交流安全をめざして実践を広げる

2024 年度は「人との交流安全」（※1）の輪を広げていくため、35 回のチームミーティングを重ねました。

※1：人との交流安全とは、CAP センター・JAPAN の造語。“交通安全”同様にすべての子ども、おとなが学ぶ機会を持ち、人との関係性構築の知識とスキルを共通認識にして、社社会全体が、「人との交流安全」な環境になることをめざす。

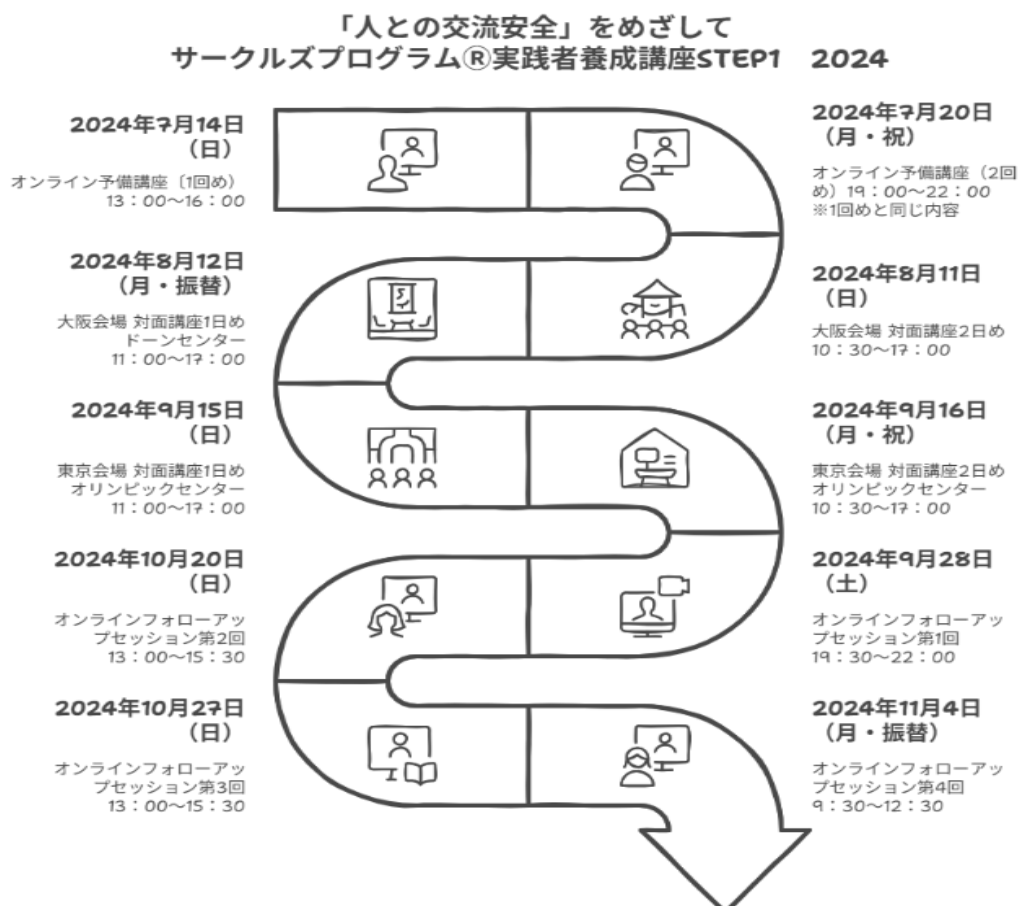
### 【サークルズプログラム®実践者養成講座 STEP1(以下、STEP1)】

サークルズおとなセミナー（以下、セミナー。※2）の実践者養成を行う STEP1 を大阪会場で 8 月に、東京会場は 9 月にそれぞれ対面で行いました（※3）。

2023 年度の STEP1 の実施経験から、前段階としてオンライン予備講座を行い、対面講座終了後は 4 回のフォローアップセッションを実施しました。2023 年度より講座の時間を増やした理由は、実践者が初めて出会う概念や言葉を日常と結び付けて自分事として捉え“わたし軸”を持つことが必要なこと。そのうえで「人との交流安全」を伝えていくセミナー実践者としてのフレームを持つことが必要と考えたためです。模擬体験の時間が取れなかったことが大きな反省点ですが、2023 年度・2024 年度で、J-CAPTA エリアの 2 グループを含む 18 グループの 44 人が修了されたこととなります（2024 年度修了者 25 人）。

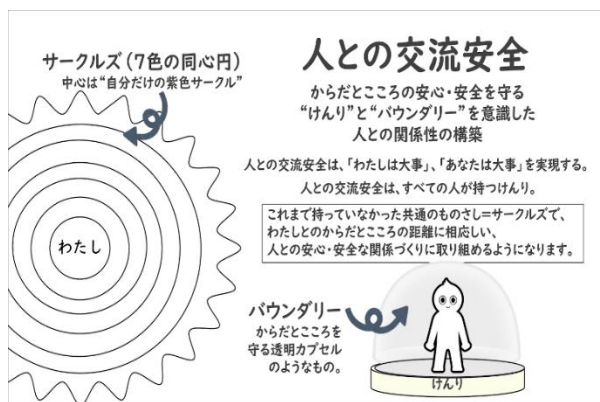
※2：「人との交流安全」の基盤を整え、共通認識を持つおとなを増やすセミナー

※3：『「人との交流安全」を考える』／ STEP1 の 1 日めに同時開催



## 【グループサポートへの取り組み】

セミナーの実践には必ずグループサポートを行い、2024 年度は延べ 8 グループに 14 回のグループサポートを実施しました。サポート内容は、依頼者の基礎情報や依頼のきっかけなどの情報共有を行い、グループとやり取りをしながら、目的・目標を定め、チームがプログラムデザイン案を作成。オンライン（Zoom）を利用した会議でグループと確認をしながら、構成を決定し、資料作成まで。そういったプロセスを経てグループは実践当日を迎えます。チームにとってグループとのやりとりで理解が深まったり、新しい発見があったりと大事な学びの場となり、それが資料やプログラムデザインのブラッシュアップにもつながりました。実際のセミナーの依頼は、性暴力防止や DV 防止に取り組む NPO や児童養護施設、教職員・保護者（人権教育研修）、乳幼児期の子どもの支援する団体、アドボケイト養成講座の I コマなどから。グループ内での情報共有のための研修としての実施もサポートを行いました。また依頼を受けて、CAP のネットワークでチームが講師を務めました。2025 年度も引き続きこれら取り組みを続けていきます。



## 【2025 年度の取り組み】

2025 年度は、STEP1 修了者の皆さんを対象としたブラッシュアップした資料や実践報告の共有の機会を 6 月末に設け、実践の後押しをすることからスタートします。また、STEP1 修了者を対象として、おとなチャレンジ（※4）とサークルズ子どもワークショップ（※5）の実践者養成である『サークルズ実践者養成講座 STEP2』を行います。それぞれ試行実施を終え、現在最後の詰めに取り組んでいるところです。また、STEP1 は東京で 2026 年 2 月に実施する予定です。

一人でも多くの CAP スペシャリストの皆さんとサークルズプログラム®を共有し、「人との交流安全」の考え方が社会の当たり前になるように、着実に歩みを進められればと思っています。ご一緒に！

※4：おとなチャレンジとは、セミナーに参加経験のあるすべての人が対象。子どもと共にサークルズを活かし、安心・安全に経験を積み重ねられる環境づくりにチャレンジすることが目的。日常と結びつけて、具体的な活用のアイディアを広げる。所要時間 90～120 分。

※5：サークルズ子どもワークショップとは、子どもが自分のからだところを守るバウンダリーと安心・安全な人との関係性構築による「わたしは大事。」「あなたは大事。」を学ぶ。所要時間 45 分×2 回。

チーム・サークルズプログラム

2025 年度助成事業

## 小1(幼児期)親子の安心・安全を支える事業

2025 年度、JR 西日本あんしん社会財団による助成事業に取り組みます。こども家庭庁は、2023 年 12 月に「はじめの 100 か月の育ちビジョン」を公開し、幼児期までの子どもの育ちが生涯を支える重要な時期であると訴えています。その後、切れ目のない支援は必要です。とくに、小学校入学時期を迎えようとする子どもを持つ養育者は、ここまで育てることができた！と安堵し、これからの子どもの人生に夢を描く一方で、様々な場面で一緒にいられなくなることへの不安も抱えることになり、子どもの行動を規制しがちになり、子ども自身がかえって窮屈になる状況もあります。統計上、子どもの歩行中の交通事故は小1の5月に増え、また、子どもが自立する過程で、おとなからの暴力、あるいは子ども同士のトラブルに遭遇することも増えます。このような親子の期待と不安が交錯する時期に、おとなが子どもの力を信じ人権を守りながら、こどもの発達に応じた適切な知識とスキルを持って対応し不測の事態にも備えることで、子どものウェルビーイングを高めるための取り組みが必要と、申請するに至りました。



### 【助成事業の成果とすること】

おとなが子どもの発達について理解し、子どもの困りごとを含め、子どもの状況に応じた対応ができるようになる。結果、子どもが自分は権利を持っている大切な存在で、自分のことが好きと思って日々過ごせるようになる。

### 【助成事業の具体的な取り組み】

- ① おとなを対象とするオンラインセミナーの実施（2回）
- ② 子どもと関わるための応援キット（チャイルドビジョンと冊子）の制作と発送（1グループ5人として2セットずつ配布。計200組のグループに配布のため、計2,000人に届けることになる）

セミナーは、子どもの権利擁護と発達理解に関して、外部講師によるセミナーを実施します。また、応援キットの応募は、集団で申し込んでいただくことにしており、子どもをまんなかにして、おとながつながり共通の話題や認識を持つことで、孤立しがちな子育てにならないことをめざします。併せて、キット利用者にはアンケートをお願いし、今後も子育て中の家族の支援に活かしていきたいと思っています。詳細が決まれば、ホームページ等で案内をしますので、CAPグループが出向かれる幼稚園・保育園での広報もぜひお願いします。

## 若者たちにもっと権利を！

2025 年 3 月 1～2 日 神戸メリケンパークで関西初の「民主主義ユースフェスティバル」が開催されました。政治や社会課題について気軽に話せる場が日本では少なく特に政治家と対話する文化がありません。そこで、キッチンカー・音楽ライブ



などを用意しながら、楽しく日本の社会課題についてみんなで一緒に考えようというのが開催目的で、これまで東京と北海道で行われました。当日は、政治・社会課題を身近に感じる対話コンテンツ、各場面での民主主義を議論するパネルディスカッション、超党派の政治家と気軽に対話する場（選挙小屋）、若者団体・市民団体ブース、ラウンドテーブル、体験型ワークショップなどがありました。主催者側から市民団体ブースに子どもの権利意識を重要課題として活動しているCAP センター・JAPAN に出展の要請があり参加しました。

ブースでは CAP の特別に大切な 3 つの権利「安心・自信・自由」やチャイルドビジョンの紹介に加えて事務所でも取り扱っている“同意って何”の絵本の掲示コーナー、子ども権利条約関西ネットワークの“なんでやねん！すごろく”の体験コーナーなど来場者に子どもの権利擁護に関心を持ってもらえるように活動してきました。



このフェスティバルの趣旨は、これからの社会を変える民主主義のためには若者に権限を与えることであり、奪われてきた若者の権利を認めることです。

そのために政治などの社会参加に加えて、私は子どもの頃から権利について学ぶことが必要と考えます。子どもへのあらゆる暴力を許さず子どもの人権が尊重される社会をめざすことがこれからの新しい民主主義の在り方と感じました。

CCJ スタッフ：佐々木興子

### 【編集後記】

今回初めての Web サイトでご覧いただく『The☆すぺしゃりすと』の編集作業を行いました。

PC 上で見やすく、また資料のための切り抜きができやすいように配慮しました。

写真は、紙媒体より鮮明になり少しでも臨場感を感じていただける仕上がりになったのではないかと思います。活動会員さまのご協力に感謝いたします。

CCJ スタッフ：佐々木興子（2025 年 7 月発行）